

中野区総合教育会議 次第

- 1 日 時 令和8年（2026年）7月31日（金） 午前10時30分から
- 2 場 所 区役所7階701，702会議室
- 3 出席者 （構成員）
区長
教育委員会教育長、委員
（関係職員）
青山副区长、栗田副区长、企画部長、総務部長、子ども教育部長・教育委員会事務局次長、子ども教育部子ども家庭支援担当部長・教育委員会事務局参事（子ども家庭支援担当）、企画部企画課長、総務部総務課長、子ども教育部・教育委員会事務局子ども・教育政策課長、教育委員会事務局指導室長
- 4 議 題 ①不登校生徒の進路について
②子どもが考える修学旅行について

不登校生徒の進路について

令和8年(2026年)7月31日
教育委員会事務局指導室

中野区教育委員会の教育理念

すべての児童・生徒が 自分らしく学ぶために

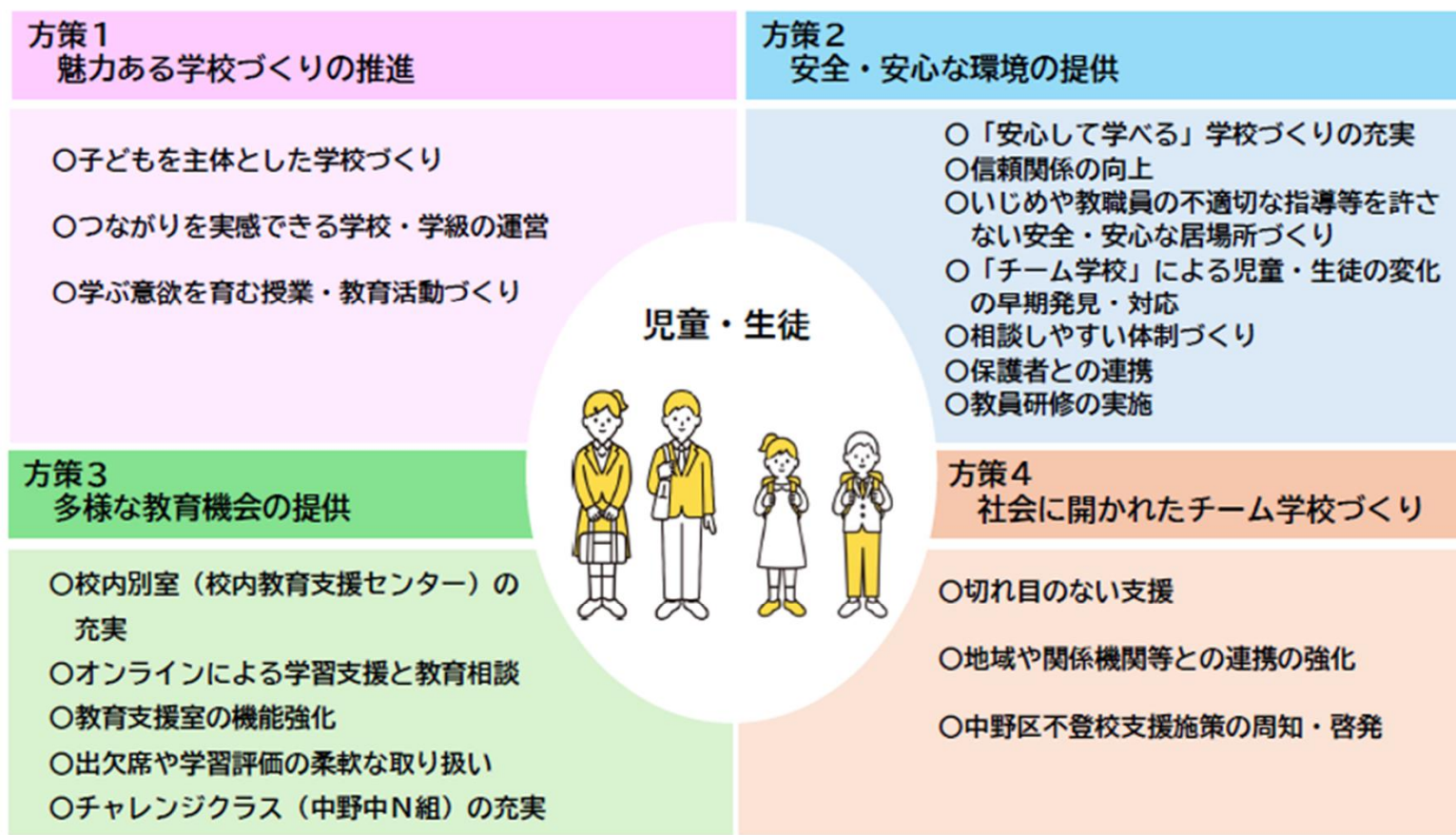
- 学校や地域で、誰もが『自分らしく』学べる。
- だれでも自分がやりたいことにチャレンジでき、みんな
いっしょに学ぶことのできる教育のまちをつくっていく

中野区教育大綱(令和5年5月 策定)の基本理念



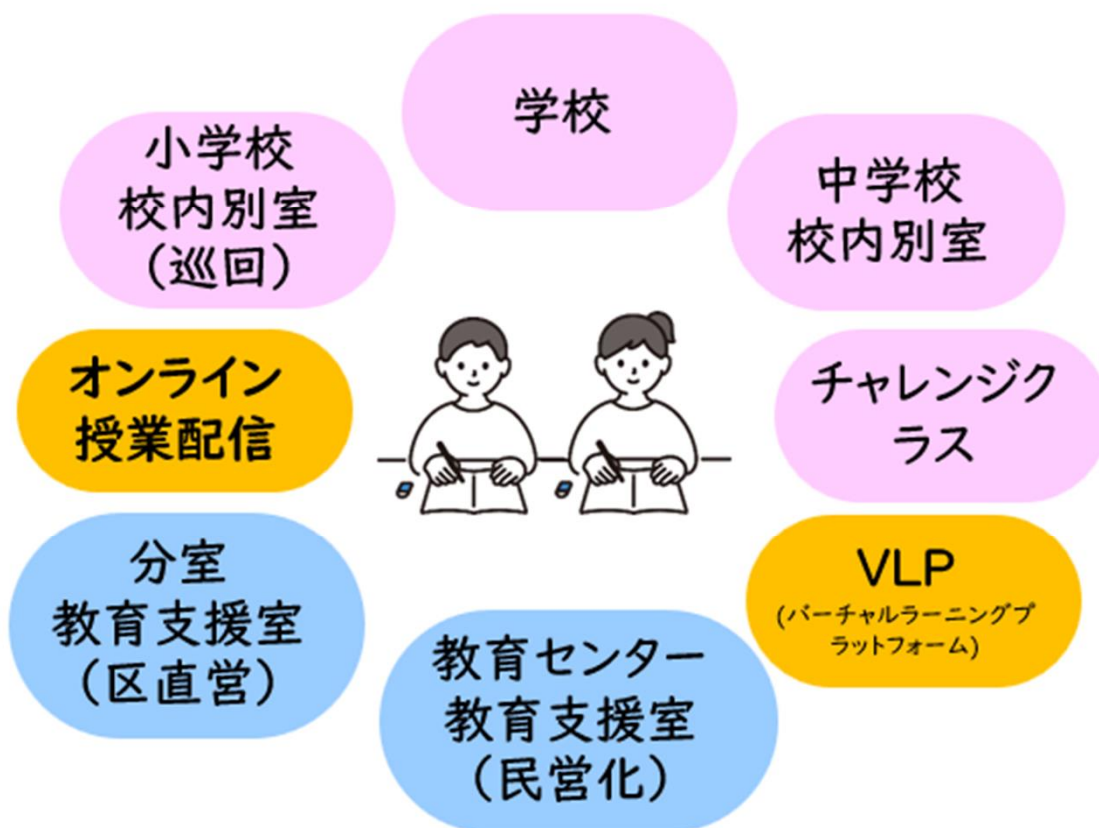
「中野区不登校支援の基本方針」の趣旨

児童・生徒一人ひとりの思いを大事しながら、社会的自立を後押ししてすることができよう、不登校対策を総合的に推進するための基本的な方針を令和7年度に定めました。



小・中学校の多様な学びの場

多様な学びの場

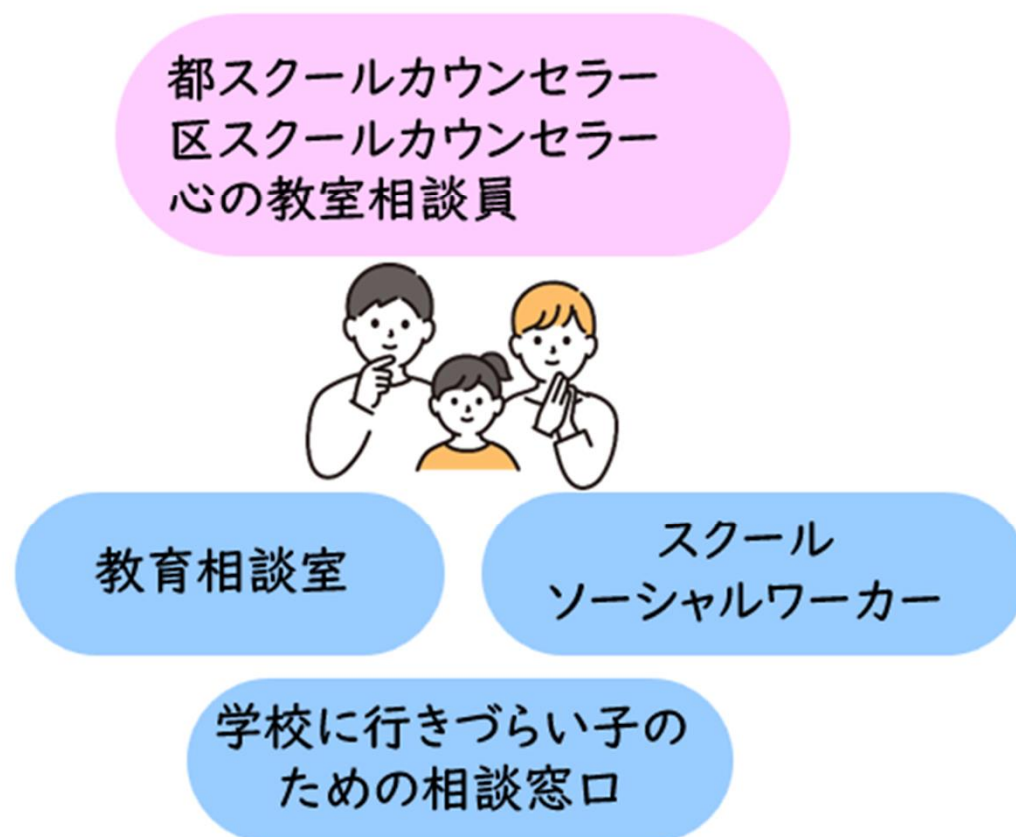


● 学校での支援

● 教育センターでの支援

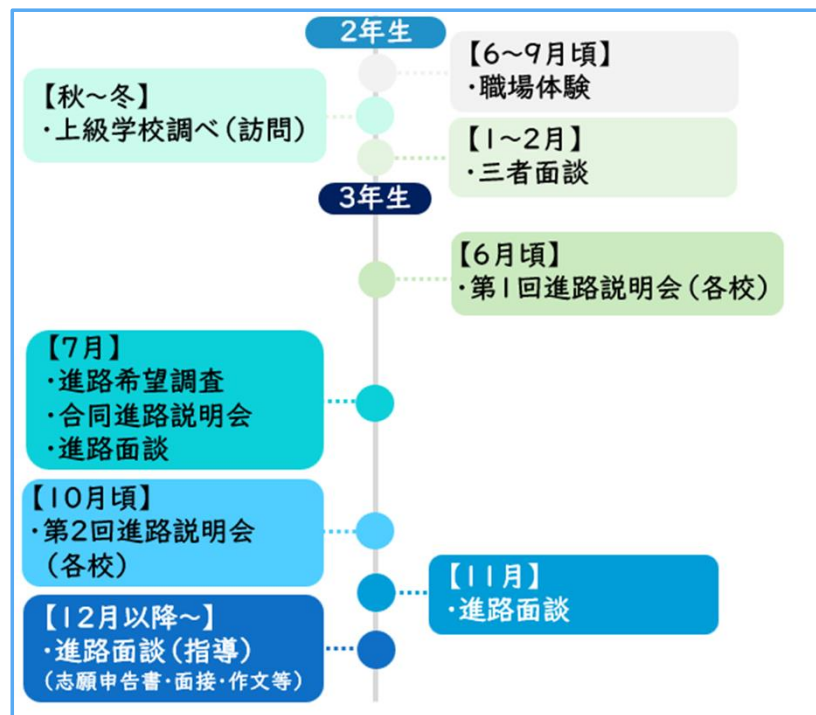
● オンラインでの支援

安全・安心な環境



不登校生徒に対するFSRでの進路指導

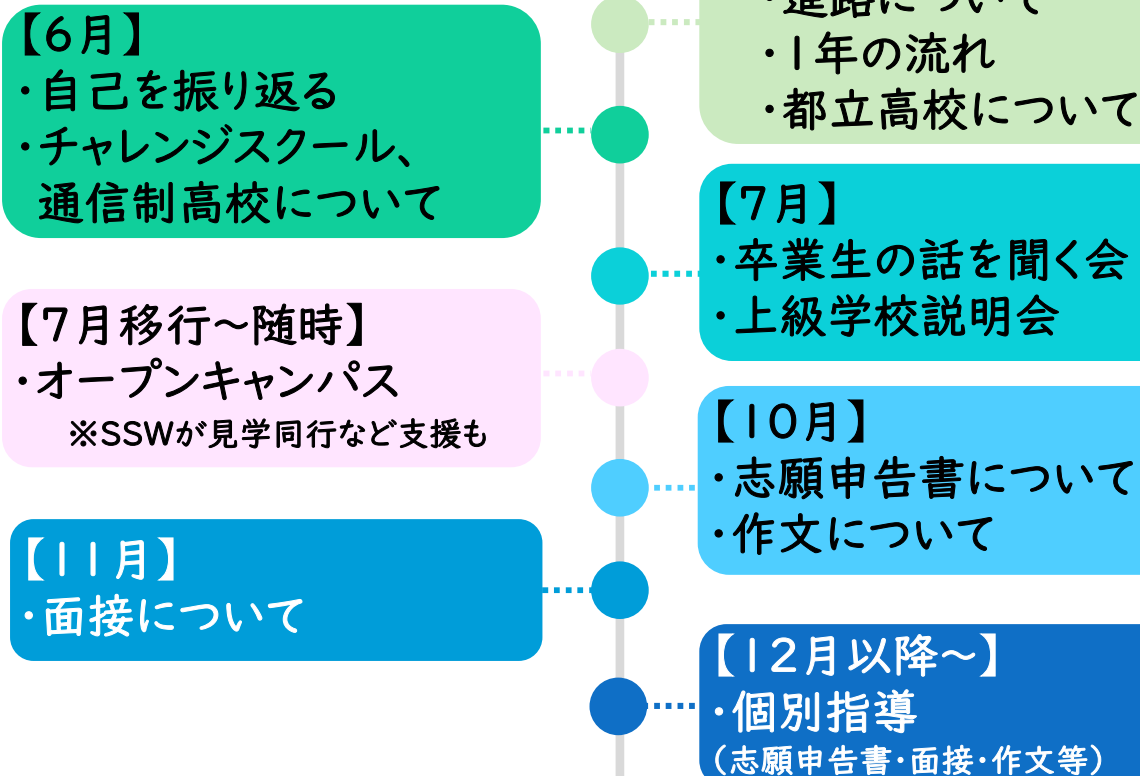
学校での進路指導



不登校生徒については
状況に応じて個別で対応!

FSRでの進路指導

3年生



中学校卒業後の多様な学びの場

- 学校や地域で、誰もが『自分らしく』学べる。
- だれでも自分がやりたいことにチャレンジでき、みんないっしょに学ぶことのできる教育のまちをつくっていく

学びの継続の保障
多様な進学先の確保
継続的な支援体制

中野区教育大綱(令和5年5月 策定)の基本理念

多様な学びの場

都立全日制高校

都立通信制高校

都立定時制高校

国立全日制高校

私立定時制高校

私立全日制高校

私立通信制高校

学習等支援施設
(サポート校)

高等専修学校



安全・安心な環境

子ども・若者相談課
総合相談

児童相談所

すこやか福祉
センター

子ども・若者相談課
若者相談

教育相談室



子ども相談室

- みらいステップなかの
- その他

区内不登校生徒の進学状況

(1) 種別(人)

年度	高等学校 全日制	高等学校 定時制	通信制	高等専門 学校	専修・ 専門学校	未定	合計
令和7年度	18	17	43	0	0	4	82
令和6年度	21	12	47	0	1	7	88
令和5年度	16	18	51	0	0	5	90

(2) 地域別(人)

年度	東京都内		近隣	近隣以外	未定	合計
	区内	区外				
令和7年度	21	52	3	2	4	82
令和6年度	12	66	1	3	6	88
令和5年度	6	77	1	2	4	90

中野区の不登校生徒が進学している東京都内の主な学校

都立高校 85人

【中野区内】

稔ヶ丘高等学校(17人)
中野工科高等学校(8人)

【中野区外】

荻窪高等学校(11人)
新宿山吹高等学校(6人)
六本木高等学校(6人)
世田谷泉高等学校(5人)
練馬工科高等学校(4人)
など

私立高校(通信制) 140人

【中野区内】

フェリーチェ高等学院(14人)
※星槎国際高等学校

【中野区外】※東京の主な通学キャンパス

明聖高等学校(22人)※高円寺
N・S・R高等学校(15人)※代々木
クラーク記念国際高等学校(12人)
※高田馬場

飛鳥未来高等学校(11人)※池袋
ルネサンス高等学校(8人)※代々木
東京文理学院高等部(6人)※高田馬場
おおぞら高校(5人)※高田馬場
NHK学園高等学校(5人)※国立
代々木高等学院(4人)※代々木
大智学園高等学校(4人)※高田馬場
日本航空高等学校(3人)※目黒
レコールバンタン高等部(3人)※恵比寿
など

※人数は、令和5～7年度
の不登校生徒の進学実績

区内の高校生との交流の創出

地域のお祭りで都立高校の生徒が
小・中学生と交流

お祭りの様子です。地域の小中学生が大勢遊びに来ていました。

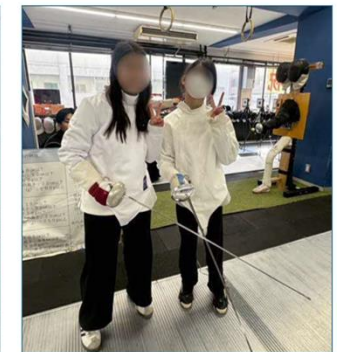
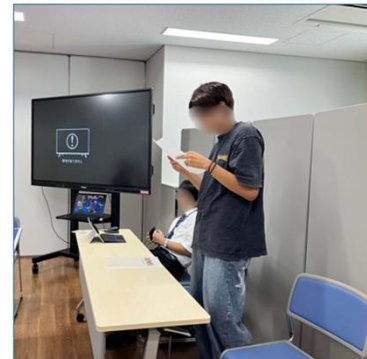


スーパーボールすくいを受付係、ラムネの販売係をしている本校の生徒です。



穂が丘高校ホームページより抜粋

FSRでフェリーチェ高等学院の生徒が
小・中学生の支援



区内の高校に進学した生徒の声

安心して通える

通学時間が短く、自分のペースで学校生活に慣れることができます。

住み慣れた地域の高校だったので、不安が少なく通い始めることができました。

地域とのつながり

友達や地域とのつながりを大切にしながら高校生活を送ることができます。

地元で少しずつ自信を取り戻しながら、新しいことにも挑戦できそうです。

支援がつながる

中学校で支えてくれた先生や相談員との連携が取りやすいので心強いです。

自分のことを知ってくれている人が近くにいることで、無理をせず高校生活を始められました。

「不登校生徒の進路について」について

ご清聴ありがとうございました。

子どもが考える修学旅行について

令和8年(2026年)7月31日

中野区教育ビジョン（第4次） 令和5年5月

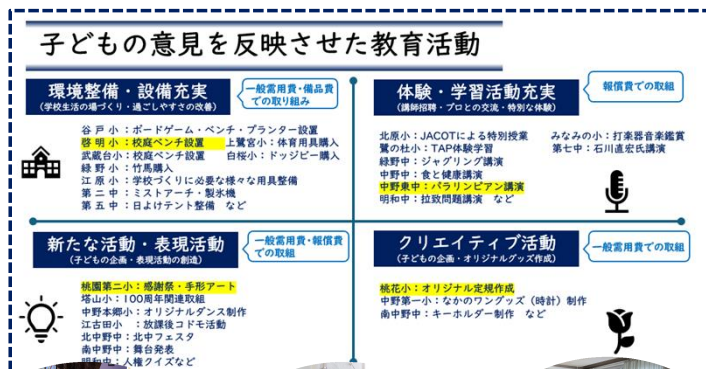
目標Ⅲ 取組の方向性 「豊かな心を育む教育の充実」

令和4年3月に制定した「中野区子どもの権利に関する条例」の趣旨を踏まえ、子どもの権利について、児童・生徒が知る機会を設けるとともに、自分の意思や考え、思いを表明する取組を充実します。

子どもの意見を反映させた教育活動

区立小・中学校では、子どもたちが表明した意見や考え、思いを尊重し、安心して表明できる場を今まで以上に増やすための取り組みを実施しています。

- 子どもの意見を反映させた教育活動のための予算を生かした取組
- 子どもの意見を反映させた学校行事
- 子どもの意見を反映させた授業づくり



子どもの意見を反映した学校行事

区立中学校では、体育祭の種目も子どもたちの意見を生かしたオリジナル種目を実施しています。



子どもの意見を反映した授業づくり

学校教育向上事業の校内研究では、多くの学校が、子どもたちの主体性を生かした授業改善に取り組んでいます。

<授業改善の視点例>

- ▶興味・関心を引き出す工夫
- ▶児童・生徒が学習課題を設定
- ▶児童・生徒が学習内容や学習活動を選択・決定
- ▶振り返りの工夫 など



子どもが考える修学旅行について

「子どもを主体とした学校教育」の実現に向けて



子どもたちが「主体的に修学旅行のプログラムを決めた」と実感でき、魅力的な学校づくりにつながるような取組となるよう各校で工夫することで「子どもの意見を反映させた教育活動」をより一層推進していく。

修学旅行先の候補地



候補地の比較表

	青森・函館	北陸	奈良・京都	広島・京都	九州
一言でいうと	自然とロマン	伝統とアート	日本の原風景	平和と古都	異文化ミックス
メインの学び	北方の歴史と雄大な自然	加賀藩の歴史と現代芸術	飛鳥～平安時代の深い歴史	平和学習と伝統文化の対比	和華蘭文化と近代化の歴史
代表的なスポット	ねぶた・五稜郭  	兼六園・21世紀美術館  	東大寺・金閣寺  	原爆ドーム・厳島神社  	グラバー園・平和祈念像  
こんな人におすすめ！	壮大な景色と独自の文化を体験したい	洗練された街歩きとデザインが好き	教科書の歴史を「本物」で感じたい	命の尊さを学び、古都の美も楽しみたい	多様な文化もテーマパークも全部満喫したい

修学旅行先の決定全体フロー

1～2月

- ▶ 教育委員会と校長会が協議
- 候補地決定(5方面)

2～3月

- ▶ 教育委員会が旅行会社(2社)と打合せ
- 教育委員会がプレゼン作成/各校に提供

4月～5月

- ▶ 教員が保護者・生徒へ説明
- ▶ 生徒が候補地を協議
- 旅行先決定

5月～6月

- ▶ 教員が旅行会社と打合せ
- 旅行プラン決定

決定までのプロセスの工夫 (A中学校)



教員のプレゼンテーション

教員が候補地について生徒に説明。
修学旅行の目的、各地で学べること、移動方法等についての概要を説明。



生徒による調べ学習

生徒が最も興味・関心を抱いた候補地について、その見どころや魅力を調べる学習を実施。
調べた内容を掲示物にまとめて、学年全体で候補地の魅力について共有。



第1回 投票

探求的な学びを生かして、まずは候補地の中で、一人ひとりが行きたいと思う場所に投票を実施。

候補地を5か所から2～3か所に選定。



決選投票・行き先の決定

上位候補に対して、改めて1年生全生徒で投票を実施し、最終決定。



「自分たちで選ぶ」という当事者意識の醸成と
自分たちで調べたいという主体性の育成

決定までのプロセスの工夫（B中学校）

Step3



代表者会議で最終決定

各学級委員が集まって、会議を実施。各学級の意見を基に話し合っ
て修学旅行先を最終決定。

Step2



各学級での調べ学習・議論

各学級で、それぞれの候補地についてメリット・デメリットを議論し、2つの
候補地に絞り込む。

Step1



教員による専門的な説明

学年主任から修学旅行の目的、社会科教員から各候補地の学習的な価
値の説明を実施。

社会科教員の専門的知見の共有と
生徒による話し合いの深化

修学旅行先の決定結果

奈良・京都エリア

3校

東京発：修学旅行 5つの候補エリアへのアクセス・ルートマップ



九州エリア

2校

青森・函館エリア
4校

取組みの効果

生徒たちの様子

＋ 教師が指示をしなくても、自主的に
見学場所や名産などを調べていた。＋

＋ 入学当初で難しさもあったが、3年後の自分
たちの姿、学習を意識する機会となった。＋

＋ ここまで自分たちで決めることができるんだ!という実感が、学習は自分たちで
考えて進めるという主体的な学びへの意識を育む貴重な機会となった。＋

教員の声

＋ 候補地から生徒と一緒に考えたことで、修学
旅行の意義や目的を見つめ直す機会となった。＋

＋ 探究的な学びを支えるカリキュラム
構築の必要性を改めて感じた。＋

「子どもが考える修学旅行について」

ご清聴ありがとうございました。